

過去に関する韓日両語の対照研究

日本語文化専攻D1 崔昇浩

1. はじめに

しばしば、韓日両国語は文法構造において酷似した言語であると言われるが、異なる言語である以上、細部に至るまで同一であるということはありません、当然のことながら両者の間には様々な違いがある。

本稿の目的は、韓日両国語の時制表現のうち「過去」に係わるものを取り上げ、両語の文法的相違の一端を示すことにある。

総体的にみると、韓日両語はほぼ同じような時制体系を持っている。ともに、時制区分は「過去」と「現在(あるいは非過去)」の二区分である。学校文法において「未来時制」を区分することもあるが、いずれの言語においてもそれは話者(あるいは聴者)の意志・推量を表すムード形式であるという点で共通している。しかしながら、韓日両語の過去形の分布には微妙な違いが見られる。つまり、韓国語の過去形に日本語の現在形が対応する例、あるいはその逆に韓国語の現在形に日本語の過去形が対応する例が散見されるのである。また、一口に「過去形」と言っても、それはいくつかの変異形の集合であり、ことに韓国語の変異形は実に多様であるため、韓日両語間の対応関係の記述は複雑にならざるを得ない。

さらに、時制はアスペクトと形態論的に独立して論ずることができない場合が多い。つまり、単一不可分の形式に時制とアスペクトの両方が重なっていることが多い。これを時制形式にアスペクトの意味が加わったものと見るか、あるいはどちらが主でどちらが従というのではなく、時制とアスペクトとが対等の関係で融合されたものと見るかについては異論があるだろうが、いずれにせよ、アスペクトの問題を抜きにして時制を論ずることはできない。

以上の理由により、韓日両語の時制を対照的に検討することは極めて複雑な作

業であるが、過去時制の諸相を論ずることにより、これにいくらかでも迫ってみたい。

2. 「タ」に対応する韓国語の形態

まず、過去を示す形態に関して比較検討してみることにしよう。

日本語の動詞に付く過去形態には「タ」～「ダ」の変異がある。使い分けは、語幹末子音が何であるかによる。語幹末子音が /m/ (読む /yom-u/)、/n/ (死ぬ /sin-u)、/ŋ/ (泳ぐ /oyog-u/) である場合に過去形態は「ダ」となり、その他の場合には「タ」となる。

一方、韓国語でも動詞に付く過去形態はいくつかの異形態を持っている。

- (1) 학교 밖으로 갔다.
(hakkyo pakkūro ka-ss-ta)
学校の外へ行った。
- (2) 어제 도서관에서 놀았습니다.
(ōje tosōkwanesō nol-ass-ūbnida)
昨日図書館で遊びました。
- (3) 친구에게 선물을 주었다.
(ch'inguege sōnmulūl chu-ōss-ta)
友達にプレゼントをあげた。

韓国語の過去形態の基本的形式は ss/ass/ と ōss/ōss/ であるが、その使い分けは母音調和の現象に支配されている。韓国語では伝統的に母音を陽母音(아/a/, 오/o/)と陰母音(それ以外の母音)に区分し、過去接辞の選択の際、語幹の最後の母音が陽母音である場合には陽母音を含む ss が、その他の場合には陰母音を含む ōss が選ばれるというように、母音調和の現象が働いているのである。これらの接辞は同一母音の脱落や母音縮約などの音韻過程を受けて、さらに様々な異形態を取ることがある。例えば、(1)の ss/kass/ は 가-ss/ka-ass/ から同一母音の脱落現象により得られた形である。

韓国語と日本語の過去形態に関して最も顕著な相違点は、日本語の過去接辞はあらゆる場合において「タ」あるいは「ダ」であり終止形と連体形を区別しないのに対して、韓国語では終止形と冠形形（連体形）が常に区別されるという点である。上記の*았/ass/*、*었/öss/*は終止形に現われる形であり、冠形形はこれとは全く別の形態を取る。

- (4) 내가 읽은 책의 작자와 내가 만났 (나+) 여자는 동일인물이다.
 (naega ilg-ün ch'aeüi chakchawa naega manna-ñ yōjanün tongilinmulida)
 私の読んだ本の著者と私の会った女は同一人物である。

冠形形(連体形)に現われる過去形態は*은/ün/*と*ㄴ/n/*であるが、その使い分けは動詞語幹が母音で終わるか(母音語幹)、子音で終わるか(子音語幹)による。前者の場合*ㄴ*が、後者の場合*은*が選ばれる。

一般に、日本語ではごく一部の場合を除いて、連体形と終止形は同一の形であるけれども、韓国語では常に両者は区別される。

さらに、韓国語には以上の形態のほかに、文末活用形では*더/tō/*、冠形形では*던/tōn/*として現われる、過去に係わる要素がある。普通、韓国語の文法では、これを過去時制の接辞とは見なさず、「回想」の接辞と読んでアスペクト接辞として扱っているが、単独で用いられることもあるけれど、次の例のように*았*や*었*と結合して用いられることが多い。

- (5) 시골에는 벌써 꽃이 피었다.
 (sigolenün pōlssō kkoch'i p'i-ōsstō-ra)
 田舎はもう花が咲いたよ。
- (6) 이렇게 맛있는 음식을 내 생전에 먹었던 적이 있었던가.
 (irōhke machissnūn ūmsikūl nae sengjōne mōk-ōsstōn chōki issōsstōnga)
 私はこれほどおいしい食べ物を今までに食べたことがあったらうか。

また、後述するように過去接辞*았/ass/*、*었/öss/*は重ねて用いられることもある。

したがって、過去を表す要素の形態的分布に関しては、韓国語は日本語よりはるかに多様に富んでいる。例えば動詞보다/poda/（見る）を例にとってみると、次のように多様な形式が可能である。

- (7) 보았/poass/
 보았었/poassöss/
 보더/potō/
 보았더/poasstō/
 보았었더/poassössstō/
 본/pon/
 보던/potōn/
 보았던/poasstōn/

これらは、通常、日本語に訳せば「見（てい）た」になるものである。

次に、形容詞に付く過去接辞の場合を検討してみよう。

文末活用形に付く過去接辞は動詞の場合と全く同じである。

- (8) 스푼가 찮다.
 (sūpūga ccha-ss-ta)
 スープはしょっぱかった。
- (9) 그 길은 좁았다.
 (kū kilūn chob-äss-ta)
 その道は狭かった。
- (10) 그 영화는 재미있었다.
 (kū yōunghwanūn chaemiiss-öss-ta)
 その映画は面白かった。

しかしながら、形容詞の冠形形接辞は動詞の場合と異なり、은/ūn/、ㄴ/n/に対応する接辞はなく（つまり、形容詞には過去連体形がなく）、回想形の던あるいはそれを過去接辞았/ass/または었/öss/と組み合わせた았던/asstōn/、있던/öss-tōn/があるのみである。

- (11) 아름답~~던~~ 장미가 시들었다.
 (arūntab-dōn changmiga sitūlōsstā)
 きれいだったバラがしおれた。
- (12) 누구나가 재미있~~었던~~ 추억은 가지고 있다.
 (nukunaga chaemiiss-ōsstōn ch'uogūn kajigo issstā)
 だれもが楽しかった思い出をもっている。

それでも、一様に「タ」で通す日本語に比べると、形容詞の過去接辞も韓国語では多様である。例えば、좋다/chohta/を例にとってみると、次のような活用形が可能である。

- (13) 좋았/chohass/
 좋았~~었~~/chohassōss/
 좋~~다~~/chohtō/
 좋~~았~~다/chohasstō/
 좋~~던~~/chohtōn/
 좋~~았~~던/chohasstōn/

3. 過去形の意味・用法

以上に論じたような過去接辞を付けた韓日両語の用言の活用形式を、便宜的に、過去形と呼ぶことにしよう。韓国語の過去形が形式的に多様であることを上に見たのであるが、それは単なる形態論的変異ではなく、統語・意味的な対立に基づく多様性である。つまり、(7)や(13)の諸形式には、それぞれ、日本語では形式的に明示されない意味・用法の違いがある。したがって、過去形に関する韓日対照研究の重要な課題の一つは、そのような韓国語の過去に関する表現の意味・用法の詳細を記述することである。

次の例に見られるように、韓国語の過去形は日本語の過去形に必ずしも対応しない。

- (14) いろいろとありがとうございました。
 여러가지로 감사합니다.
 (yōrō gajiro kamsahabnida)
- (15) とても疲れしました。
 아주 피곤합니다.
 (aju p'igonhabnida)
- (16) おいどうしたね。
 예, 왜 그러냐?
 (yae, waegūrōnya)
- (17) 彼は結婚していますか。
 그는 결혼했습니까?
 (kūnūn kyōlhon-haess-sūbnikka)
- (18) 父親に似ている。
 아버지를 닮았습니다.
 (abōjirūl talm-āss-sūbnida)

(14)-(16)では韓国語の現在形に日本語の過去形が対応し、逆に(17)、(18)では韓国語の過去形に日本語の現在形が対応している。前者の対応の例は比較的に稀であり、その説明も個別的になされるべきもののようである。例えば、(14)の例は、「ありがたい」がコトについての表現(つまりコトを主語とする表現)であるのに対して、감사하다/kamsahada/(感謝する)は普通ヒトが行なう行為を表す表現(つまり、ヒトを主語とする表現)であるという違いで説明できる。感謝という行為は、ヒトがなんらかのコトに対して行なうものであるから、日本語では、そのコトが過去のことであると解釈すれば「ありがとうございました」となり、それが現在のことであるとすれば「ありがとうございます」となる。ところが韓国語では、感謝するのはあくまでも現在のことであるから、コトの起こったときとは関係なく現在形で감사합니다と表現するのである。また、(15)の例は、「疲れる」が状態の変化を表す動詞であるのに対して、피곤하다/p'igonhada/が「疲れている」という意味の形容詞であることによるものである。

一方、(17)、(18)のように韓国語の過去形に日本語の現在形が対応する例はかなりよく見られるものであり、そこには、それぞれの言語において過去形が担っている文法的意味の微妙な「ずれ」が現われていると思われる。

韓国語においても日本語においても、過去形は「過去」という時制的な意味だけでなく「完了」というアスペクトの意味を担うと言われる。次の例を検討してみよう。

- (19) 昨年の夏 韓国に行った。
작년 여름에 한국에 갔다
(chagnyōn yōrūme hanguke ka-ss-ta)
- (20) 昨日のことだった。
어제의 일이었다.
(ōjeūi ili-ōss-ta)
- (21) 花のさいだ桜はきれいだった。
꽃이 된 벚꽃은 아름다웠다.
(kkoch'i P'i-n pōkkochūn arūmdawōssta)
- (22) もう日が暮れた。
벌써 해가 졌다.
(pōlssō haega chy-ōss-ta)
- (23) あなたは学生でしたね。
당신은 학생이었지요?
(tangsinūn haksaeŋgi-ōss-chiyo)
- (24) 明日は会議だったな。
내일이 회의였지.
(naeili hwiūiy-ōss-chi)

(19)と(20)の例は、過去のあるときを表す語句(昨年の夏、작년 여름; 昨日、어제)を含むことからわかるように、過去形は純然たる過去時を示す時制的用法である。これに対して(21)と(22)の過去形は、過去にある事柄が完了したこと、あるいはその結果を表すアスペクトの色彩の強い用法であり、(23)と(24)は話者の心理判断を表すムード的な用法である。

このように、韓日両語の過去形には時制以外の意味を表す用法があり、その分布に関して両言語の間にかかなりの一致が見られるのであるが、もちろん全く同じ

- (29) 授業はもう始まっている。
수업은 벌써 시작되었다
(suobūn pōlssō sijakdoi-ōss-ta)
- (30) 婚約している。
약혼했다.
(yakhonhae-ss-ta)
- (31) 10時を過ぎている。
10시를 지났다.
(yōlsirūl chin-āss-ta)
- (32) その意見は間違っている。
그 의견은 틀렸다.
(kū ūigyonūn t'ūlly-ōss-ta)
- (33) そのことは彼に話してある。
그 일은 그 사람한테 말했다.
(kū ilūn kū saramhant'e malhae-ss-ta)
- (34) 宿題は全部済ましてある。
숙제는 전부 끝냈다.
(sukchenūn chōnbu kkūt'nae-ss-ta)

これらの例は、いずれも韓国語の過去形と日本語のアスペクト形式「テイル／テアル」との対応である。つまり、日本語で過去の出来事の結果生じた現在の状態を明示するのに「テイル／テアル」の形式を用いる場合に、韓国語では単純にそれを過去形で表すことがあるということである。言い換えれば、韓国語の過去形にはそのようなアスペクト的意味が色濃く含まれているということである。

韓国語にも日本語の「テイル／テアル」に対応するアスペクト表現がある。次の例の아 있다/a isssta/あるいは어 있다/ō isssta/及びその変化形がそれである。

- (35) 벚꽃이 피어있다.
(pōskkoch'i p'i-ō isssta)
桜の花が咲いている。
- (36) 의자에 앉아 있다.
(ūijae anj-a isssta)
椅子に座っている。

- (37) 지갑이 떨어져 있다.
(chigabi ttölj-ö isssta)
財布が落ちている。
- (38) 벽에 그림이 걸려 있다.
(pyöge kürimi kölly-ö isssta)
壁に絵が掛けてある。
- (39) 의자가 나란히 정렬되어 있다.
(üijaga naranhi chöngyöldoi-ö isssta)
椅子がきちんと並べてある。

しかしながら、韓国語の「아/어 있다」は日本語の「テイル/テアル」に比べると制約が強く、(29)―(34)の場合に用いることができない。

ついでながら、日本語形式「テイル」には、以上に述べた完了アスペクトのほかに行進アスペクトとしての用法がある。

- (40) a いま雨が降っている。
b 彼は今本を読んでいる。
- (41) a 彼はさっき本を読んでいた。
b 今日家を出た時、雨が降っていた。

これに対応する進行アスペクト形式として韓国語には「고 있다」がある。上の(40)(41)を韓国語で示せば、次のようになる。

- (42) a 지금 비가 온다.
(chigüm piga o-n-da)
b 그는 지금 책을 읽는다.
(künün chiküm ch'aekül ilk-nün-ta)
- (43) a 그는 아까 책을 읽었다.
(künün akka ch'aekül ilkk-öss-ta)
b 오늘 집을 나왔을 때 비가 왔다.
(onül chipül nawassül tte piga w-äss-ta)

これに対して日本語では、極く特殊な場合を除いて、単純現在形が行進アスペク

トを担うことはできない。つまり、過去形ばかりでなく、現在形においても韓国語のほうが、アスペクトと結び付きやすいのである。

(7)や(13)に示したように韓国語の過去形は多様な形式を持ち、その多くは日本語では形式的に区別されない意味上の区別を反映している。その一つは、過去接辞았/ass/や있/öss/の重複によって表される意味である。この重複形式は、西洋語の文法にならって「大過去」とか「過去完了」と呼ばれることもあり、実際そのような名称に合致する意味を表すこともあるけれども、基本的な意味・用法は韓国語と独特のものである。

例えば、「駅まで行った」に対応する韓国語の表現としては、次のようなものが可能である。

- (44) a 역까지 갔다.
(yökkkaji ka-ss-ta)
b 역까지 갔었다.
(yökkkaji ka-ssöss-ta)
c 역까지 갔었어요.
(yökkkaji ka-ssössöss-ta)

(44a)의 갔다/kassta/は가다/kada/(行く)の単純な過去形であるが、(44b)의 갔었다/kassösssta/はそれに過去接辞있/öss/を重ねており、(44c)ではさらにもう一つ있/öss/を重ねている。가다のような移動動詞や何らかの変化を表す動詞の過去形は、既に述べたように完了のアスペクトと結び付きやすい。したがって、(44a)のような表現は、過去時を明示する語句を伴わないかぎり、単純に過去を表すというよりは、「今ここにいない」とか「今は駅にいる(と思う)」というような意味を伴うのが普通である。したがって、現在とは関係しない過去の出来事を述べる場合には、(44b)の重複形式を用いる。(44c)は、(44a)や(44b)と定期的に区別されるような意味を持つものではなく、口調の産物であることもあり、(44b)のような重複形式の強調であることも、またそれ以外の特殊な意味を持つこともある。

過去接辞の重複形式は、現在に関係しない過去の事実を述べることからさらに

進んで、現在と異なる過去の事実を述べるのに用いられることもある。つまり、現在との対比の意味を持つこともある

- (45) 옛날에는 꽤 잘 살았었다.
(yesnalenūn kkoae chal sal-assōss-ta)
昔はかなり良い暮らしをしていた。
- (46) 어릴 때 몸이 아주 약했었다.
(ōril ttae momi aju yakhae-ssōss-ta)
子供の頃身体がすごく弱かった。
- (47) 옛날에는 전부 알았었는데 지금은 잊어 버렸다.
(yesnalenūn chōnbu al-assōss-nūnde chigūmūn ijō pōryōsta)
昔は全部知っていたが今は忘れてしまった。

過去接辞がいくつまで重複できるかについては、単純に数字で限定できないようである。多分口調上の理由が大きいと思われるが、次のような例では、過去接辞を3個以上重ねるのは不自然である。

- (48) 私はお金があった。
나는 돈이 있었었다.
나는 돈이 있었었다.
? 나는 돈이 있었었다.

過去に係わる活用形の多様性を高めているもう一つの原因は、第2節で述べた回想の接辞더/tō/である。例えば、「昨日は順番を待っている行列がすごく長かった」という意味を韓国語で表す場合、더/tō/を含むか含まないかによって、次のような、多様な形式が可能である

- (49)a 어제에는 순서를 기다리는 행열이 굉장히 길었다.
b 어제에는 순서를 기다리는 행열이 굉장히 길었었다.
c 어제에는 순서를 기다리는 행열이 굉장히 길더라.
d 어제에는 순서를 기다리는 행열이 굉장히 길었더라.

e 어제는 순서를 기다리는 행렬이 굉장히 길었~~다~~더라.

(49a, b)についてはすでに述べた。(49c)には~~더~~が単独で用いられており、(49d)には過去接辞と~~더~~が組み合わされて、さらに、(49e)では過去接辞がさらにもう一つ結合されている。(49a, b)が「行列がすごく長かった」ことを単に過去の事実として述べているに過ぎないのに対して、(49c-e)のように~~더~~を用いると、それを回想して表出する、あるいは報告するというニュアンスが加わるのである。このニュアンスは日本語の過去形自体の中には含まれておらず、場合によって「よ」とか「なあ」のような終助詞で表されるムード的なもののものである。(49c)と(49d)の違いは、意味上明確に述べることは困難で、口調の問題も関係しているかも知れないが、過去の意味の強調とでも言うべきもののものである。(49d)と(49e)の違いは過去接辞の重複の問題であり、既に述べた説明がここにも当てはまる。

4. むすび

以上、日韓両語の過去形の、形式、意味・用法を対照的に概述した。これによって、日韓両言語が、文法構造・概念において基本的な同じであるとは言うものの、細部を見ればかなりの相違点を持っているということの、一端を明らかにできたと思う。

しかしながら、本稿の記述は、問題の中核となる点を扱っているけれども、あくまでも概述に過ぎず、問題点のすべてを尽くしたものでは勿論ない。今後の課題としては、対照言語学的見地から、この課題に関してさらに詳細な検討を加えると共に、問題の性質上、時制という狭い領域に考察の領域を限定せず、アスペクト、ムードをも含めた広い観点からこの問題を捉えることに努めたい。

《参考文献》

- (1) 寺村秀夫、『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』、くろしお出版、1984.
- (2) 田中章夫、「過去(回想)・完了の助動詞 た(だ)ー現代語」。(松村明著、『古典語現代語助詞助動詞の詳説』、學燈社、1984)
- (3) 井上和子編、『日本文法小事典』、大修館書店、1989.
- (4) 国立国語研究所、『現代語の助詞・助動詞一用法と実例一』、秀英出版、1951.
- (5) 北原保雄編、『日本文法事典』、有精堂、1983.
- (6) 日本語教育学会編、『日本語教育事典』、大修館書店、1982.
- (7) 李翊燮・任洪彬、『国語文法論』、學研社、1988.
- (8) 崔鉉培、『우리말본(urimalbon)』、正音社、1982.
- (9) 文法研究会、『文法研究一第1集』、塔出版社、1986.
- (10) 金敏洙、『国語文法論』、一潮閣、1983.

(チェ スンホ：日本言語文化)